

I. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した。

1. [H30-002: 意見聴取] 運営委員会規則および選挙施行細則の改定案について意見聴取を行った（審議期間 2018 年 6 月 14 日から 6 月 23 日）。
2. [H30-003: 採決・報告] 故亀井裕幸氏からの寄付金の予算執行計画の見直しについて審議し、承認された（審議期間 2018 年 6 月 14 日から 6 月 23 日）。また、遠州灘フォーラム後援・協力についての報告を行った（報告日 2018 年 6 月 14 日）。
3. [H30-004: 意見聴取] 平成 30 年度植生学会各賞の候補者の推薦について審議し、受賞者が決定した（審議期間 2018 年 9 月 13 日から 9 月 22 日）。

2018 年 10 月 20 日に宇都宮大学峰キャンパスにおいて定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 2017 年度収支決算（案）について審議した。
2. 2018 年度収支予算（案）について審議した。
3. 植生学会会長・運営委員選挙の日程について審議した。
4. 植生学会運営委員会規則及び選挙施行細則の改定について審議した。
5. 国際植生学会大会招致委員会の設置について審議し、引き続き検討を重ねることとした。
6. 第 24 回大会（2019 年）の開催地について審議し、承認された。

II. 編集委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した。

1. [H30-1: 意見聴取] 電子付録の J-STAGE 掲載にかかる誌面上の表記について意見聴取を行った（聴取期間 2018 年 9 月 4 日から 9 月 17 日）。
2. [H30-2: 採決] 電子付録の J-STAGE 掲載にかかる誌面上の表記について審議し、承認された（審議期間 2018 年 9 月 19 日から 9 月 25 日）。
3. [H30-3: 意見聴取] 審査業務マニュアルの改訂について意見聴取を行った（聴取期間 2018 年 9 月 27 日から 10 月 11 日）。
4. [H30-4: 採決] 審査業務マニュアルの改訂について審議し、承認された（審議期間 2018 年 11 月 3 日から 11 月 16 日）。

2018 年 10 月 20 日に宇都宮大学峰キャンパスにおいて定例

の編集委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 審査業務マニュアルの改訂について審議した。
2. 投稿論文の増加を促すための対策について審議した。

III. 企画委員会報告

2018 年 10 月 20 日に宇都宮大学峰キャンパスにおいて定例の企画委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 次年度トレーニングスクール実施および広報について審議した。学会開催地および新潟大学佐渡フィールドセンター（2018 年度は応募者 0）において引き続き実施すること、早めに広報を行うことを確認した。
2. 次年度東日本震災プロジェクトについて審議し、プロジェクト活動が具体的に行われていること、引き続き実施することを確認した。
3. 全国シカー植生調査プロジェクトについて審議した。データ数が全国的に少ないため、一層の協力を学会内外によびかけ、2019 年秋まで引き続き実施すること、中間報告を学会ホームページで公開することを確認した。
4. 自由集会について審議し、2018 年度の日本生態学会神戸大会では海岸植生をテーマに開催することを確認した。
5. 書籍発刊について審議し、日本の植生の現代の動きと魅力をわかりやすく概説する書籍「(仮題) 日本の自然を未来に繋ぐ」を 2 年後に発行することをめざすことを確認した。
6. 植生資料のデータベース化についてについて審議し、横浜国大（小池氏すでに構築）、兵庫県博物館（橋本氏すでに構築）と調整しながら、進めることを確認した。
7. 若手研究助成制度について応募要項などを作成し 2018 年度中に募集することを確認した。

IV. 表彰委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した。

1. [H30-1: 採決] 平成 30 年度特別賞 1 名、奨励賞 1 名、論文賞 1 件の受賞候補者について審議し、承認された（審議期間 2018 年 8 月から 9 月 5 日）。

2018 年 10 月 20 日に宇都宮大学峰キャンパスにおいて定例の表彰委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 表彰委員会規則の改定について審議し、承認された。
2. 表彰規則を制定した（別掲 1）。
3. 発表賞の審査を実施し、口頭発表賞 1 件、ポスター発表賞 1 件を決定した。

別掲 1. 植生学会表彰規則

2018年10月20日 改定

(趣旨)

第1条 この規則は、植生学会会則第3条3項および表彰委員会規則第8条の規定に基づき、会員の表彰に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 植生学のさらなる発展のため、植生学の分野において著しい成果を挙げた者および研究、教育、本会の運営等に特に顕著な功績をなした者、大会において優秀な発表を行った者、植生学会誌において優秀な論文を発表した者に対して賞を授与し、その功績を称えることを目的とする。

(表彰の種類)

第3条 表彰の種類は植生学会賞、植生学会奨励賞、植生学会功労賞、植生学会特別賞、植生学会研究発表賞、植生学会論文賞とする。これ以降はそれぞれ学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞、研究発表賞、論文賞とよぶ。

- 2 [学会賞] 本会に5年以上所属し、植生学に関して優れた業績によって貴重な学術的貢献をなしたと認められる者を対象とする。学会賞の選考対象となる業績には、植生学会誌掲載論文のほか、植生学に関するその他の論文・著書も含める。
- 3 [奨励賞] 本会が発行した刊行物に優秀な論文を発表し、独創性と将来性をもって学術的貢献をなしたと認められる者を対象とする。選考の対象者は40歳未満の者とし、過去に奨励賞の受賞経験のない者とする。
- 4 [功労賞] 植生学にかかわる研究、調査、教育、啓発普及や本会の運営に関し、特に顕著な功績があったと認められる者を対象とする。
- 5 [特別賞] 植生学または植生学会の発展のために多大な貢献をしたと認められる個人または団体を対象とする。研究や教育への貢献のみならず、植生学の視点から環境保全事業や普及活動などにとりくむような社会貢献も評価の対象とする。
- 6 [研究発表賞] 植生学会年次学術大会において優秀な発表を行った学生または博士研究員を対象とする。
- 7 [論文賞] 植生学会年次学術大会当該年度の前年度に刊行された植生学会誌掲載の原著論文のうち、特に優れている論文を対象とする。

(候補の選定)

- 第4条 学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞の候補者は、別に定める推薦要領に基づき本会会員より推薦された者（自薦、他薦を問わない）の内から表彰委員会が候補者を選定する。
- 2 研究発表賞の候補者は、植生学会研究発表賞細則に基づいて審査員が候補者を選定する。
 - 3 論文賞の候補の選定は、編集委員会に委嘱する。
 - 4 学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞の候補者および論文賞の候補は、当該年度次学術大会の1か月前までに選定する。

(受賞の決定)

- 第5条 学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞、論文賞の受賞者は、運営委員会の議を経て決定する。
- 2 研究発表賞の受賞者は、表彰委員会の議を経て決定する。

(表彰の方法)

- 第6条 各賞の受賞者には総会にて賞状および記念品を贈呈する。
- 2 功労賞受賞者は次年度以降の会費を免除する。
 - 3 各賞の受賞者は植生学会誌の学会記事にて公表する。

(雑則)

- 第7条 本規則に定めるもののほか、会員の表彰に必要な事項は別に定める。
- 第8条 本規則の変更は表彰委員会の決議による。

附則 2002年10月18日 植生学会表彰規程制定

1. この規定は2002年10月18日から施行する。

附則 2004年10月29日改定

1. この規定は2004年10月29日から施行する。

附則 2011年9月24日改定

1. この規定は2011年9月24日から施行する。

附則 2013年10月13日改定

1. この規定は2013年10月13日から施行する。

附則 2014年8月22日改定

1. この規定は2014年8月22日から施行する。

附則 2018年10月20日改定

1. 植生学会表彰規程を植生学会表彰規則に改める。
2. この規則は2018年10月21日から施行する。

V. 群集属性検討委員会報告

2018年10月20日に宇都宮大学峰キャンパスにおいて群集属性検討委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 環境省総合推進費への申請について審議し、申請書（案）の内容や申請に向けた今後のスケジュールなどについて検討した。
2. 今後の委員会の進め方について審議し、総合推進費による研究課題が採択された場合、総合推進費で行う研究内容と委員会での検討事項との関係を整理する必要があることを確認した。

VI. 大会支援委員会報告

2018年10月20日に宇都宮大学峰キャンパスにおいて定例の大会支援委員会を開催した。審議事項は以下の通り。

1. 第23回大会の支援について審議し、大会会計について出納簿を作成して引き継ぐことを決定した。
2. 植生学会大会運営委員会規則の改定について審議した。
3. 第24回大会の支援について審議した。大会受付開始日は植生情報刊行日とすること、発表申し込み・講演要旨締め切り日を8月31日とすること、キャンセル受付日を9月10日までとすること、トレーニングスクール担当者について決定した。
4. 大会案内の公開方法の変更について審議し、第24回大会から大会案内の発送を取りやめ、PDFで公開されたことをMLで周知すること、ML未登録者にははがきを送付することを決定した。

5. 次期大会より申し込み後のキャンセルの受付について審議し、受付締め切り日を設けること、締め切り日までに参加費が未納の場合には講演をキャンセルとすることを決定した。
6. 大会支援委員会企画について審議し、次期大会について継続的に審議することとした。

VII. 2018年度総会報告

2018年10月21日（日）に宇都宮大学峰キャンパスにおいて2018年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

A. 報告事項

1. 学会事務局報告

2018年10月1日現在の会員数（正会員508名、団体会員11団体、賛助会員1団体）が報告された。

2. 各種委員会報告

上記I～VIの運営委員会、各種委員会の審議事項が報告された。

3. その他

第24回大会の運営代表者として弘前大学の石川幸男氏より、多数の参加が要請された。

B. 承認事項

1. 2017年度収支決算（別掲2, 3）について
2. 2018年度予算案（別掲4, 5）について

別掲2. 植生学会2017年度一般会計収支決算

（単位：円）

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	2,881,716	2,881,716	0	
会費	3,174,000	2,734,000	-440,000	一般386, 学生31, 団体9, 賛助1
バックナンバー売り上げ	20,000	6,200	-13,800	
雑収入	500,000	422,019	-77,981	
		(37,809)		著作権使用料など
		(384,210)		別刷・超過ページなど
利息	500	38	-462	
計	6,576,216	6,043,973	-532,243	
支出の部	予算	決算	差異	備考
植生学会誌刊行費	2,000,000	1,484,524	515,476	第34巻1号・2号（別刷印刷費を除く）
植生情報刊行費	400,000	378,000	22,000	第21号
学会事務局経費	900,000	793,063	106,937	学会事務局・会計事務局経費を含む 18年度に入ってから経費精算のための払い込み手数料を含む
編集委員会経費	40,000	5,400	34,600	
企画委員会経費	400,000	35,200	364,800	
表彰委員会経費	50,000	46,492	3,508	
大会補助費	350,000	350,000	0	第22回大会
予備費	2,436,216	47,520	2,388,696	別刷・超過ページなど
計	6,576,216	3,140,199	3,436,017	
収支差額（繰り越し）	0	2,903,774		

別掲3. 植生学会 2017 年度特別会計収支決算

(単位: 円)

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	5,000,000	5,000,000	0	4月28日に入金
計	5,000,000	5,000,000	0	
支出の部	予算	決算	差異	備考
国際学術発表助成事業	0	0	0	
国際植生学会派遣事業	0	0	0	
研究助成	0	0	0	
植生情報データベース化	0	0	0	
書籍刊行	0	0	0	
そのほか(雑費)	0	0	0	
計	0	0	0	
収支差額(繰り越し)	5,000,000	5,000,000	0	

別掲4. 植生学会 2018 年度一般会計収支予算

(単位: 円)

収入の部	2018 年度	2017 年度	差異	備考
前期繰り越し	2,903,774	2,881,716	22,058	
会費	3,040,000*	3,174,000	-134,000	*一般 444, 学生 64, 団体 11, 賛助 1 (10月1日現在)
バックナンバー売り上げ	20,000	20,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
利息	500	500	0	
計	6,464,274	6,576,216	-111,942	
支出の部	2018 年度	2017 年度	差異	備考
植生学会誌刊行費 1,000,000 円×2回	2,000,000*	2,000,000	0	*第35巻1号・2号
植生情報刊行費 400,000 円×1回	400,000*	400,000	0	*第22号
学会事務局経費	900,000	900,000	0	
編集委員会経費	40,000	40,000	0	
企画委員会経費	400,000	400,000	0	
表彰委員会経費	50,000	50,000	0	
大会補助費	350,000*	350,000	0	*第23回大会
予備費	2,324,274	2,436,216	-111,942	
計	6,464,274	6,576,216	-111,942	

別掲5. 植生学会 2018 年度特別会計収支予算

(単位: 円)

収入の部	2018 年	2017 年	差異	備考
前期繰り越し	5,000,000	5,000,000	0	
計	5,000,000	5,000,000	0	
支出の部	予算	決算	差異	備考
国際学術発表助成事業	150,000	0	150,000	
国際植生学会派遣事業	300,000	0	300,000	
研究助成	150,000	0	150,000	
植生情報データベース化	150,000	0	150,000	
書籍刊行	0	0	0	
そのほか(雑費)	30,000	0	30,000	
計	780,000	0	780,000	
収支差額(繰り越し)	4,220,000	5,000,000	-780,000	

VIII. 学会賞

2018年度の学会各賞の受賞者は以下の通り、授与式は2018年10月21日に宇都宮大学峰キャンパスで行われ、石川会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された。

特別賞 亀井裕幸

奨励賞 李 娥英（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）

論文賞 鐵 慎太郎・吉川正人・鮎川恵理氏、三陸北部の岩礁海岸に成立する小規模湿地の立地特性と植生（植生学会誌第34巻2号65-85頁掲載、2017年12月発行）

研究発表賞

口頭発表賞 鐵 慎太郎・星野義延（東京農工大学・院）三浦半島の海崖草本植生における群落構成種の葉フェノロジー

ポスター発表賞 元廣はるな（北大大学院農学院）、富士田裕子（北大FSC植物園）、柏木淳一（北大農学研究院）、三木 昇（北ノ森自然伝習所）、内田暁友（斜里町立知床博物館）山岳湿原の登山道による踏圧が植生と土壌環境に与える長期的影響

IX. 植生学会第23回大会報告

植生学会第23回大会（大会会長：大久保達弘、実行委員長：西尾孝佳）が、2018年10月20日～23日にかけて下記日程で宇都宮大学峰キャンパスおよび栃木県足尾・日光にて開催された。一般講演では口頭28題、ポスター33題の発表申し込みがあった。参加者は事前申込者124名、当日参加者17名の計141名であった

10月20日 各種専門委員会・運営委員会・公開シンポジウム

10月21日 一般講演（口頭発表、ポスター発表）、学会賞各賞授与式、総会、学会賞受賞者講演、エクスカッション説明会、懇親会

10月22～23日 エクスカッション（栃木県足尾・日光）

一般講演の申し込みは以下のとおりであった。

<口頭発表>

A01 三浦半島の海崖草本植生における群落構成種の葉フェノロジー。鐵 慎太郎・星野義延（東京農工大学・院）

A02 竹林分布の将来予測—気候変動・人口減少進行下の長野県において—。相原隆貴（筑波大学・山岳科学学位プログラム）・高野（竹中）宏平・尾関雅章（長野県環境保全研究所）・津山幾太郎（森林総合研究所北海道支所）・松井哲哉（森林総合研究所）

A03 天竜川水系の河川敷における希少植物の生育する群落構造および外来植物との関係。中原美穂（信州大学大学院総合理工学研究科）・大窪久美子（信州大学学術研究院農学系）

A04 チェックリストを用いた高知県中部における草原生・準草原生植物普通種の多様性評価。大利卓海（高知大・院・理）・比嘉基紀・石川慎吾（高知大・理）

A05 湿地に関する既存情報の集約と再検討による全国湿地

データベースの作成。李 娥英・富士田裕子（北大FSC植物園）

A06 名古屋、八竜大森湿地の14年間の植生変化。中西 正（鳳来寺山自然科学博物館）・柴田美子（水源の森と八竜湿地を守る会顧問）

A07 北海道東部における地上歩行性鳥類が生息する湿原の植生比較。加藤ゆき恵・貞國利夫（釧路市立博物館）

A08 100年前の湖辺環境を読み解く—千葉県手賀沼の事例—。山ノ内崇志（福島大・院・共生システム理工）

A09 日本の水田植生における種組成の変動をもたらす環境要因。池田浩明（農業環境変動研究センター）

A10 入笠湿原における群落の組成、環境条件、保全。牧 玲佳・島野光司（信州大学理学部）

A11 武蔵野台地に隔離分布するクジュウツリスゲとチュウゼンジスゲの生育地の植生。吉川正人（東京農工大・院・農）・高橋 歩（東京農工大・農・地域生態システム）

A12 北海道十勝地方豊北海岸における漂着木処理が海岸植生へ及ぼす影響。持田 誠（浦幌町立博物館）・加藤ゆき恵（釧路市立博物館）

A13 四国太平洋岸の海岸林の組成と分布。村上雄秀（IGES国際生態学センター）・西川博章（株式会社ラーゴ）

A14 大阪府（冒険の森）に分布するヒノキ林床下のミズゴケ類の現状。小林悟志（冒険の森・里山保全活用研究室）

B01 くじゅう火山群がツルにおける植生推移。桑原佳子・播磨さおり・足立高行（NPO法人おおいだ生物多様性保全センター）※2017年度大会の未発表講演

B02 春日山照葉樹林における不嗜好植物クリンソウの個体群の動態。前迫ゆり（大阪産大・院・人間環境）・古田晴信（大阪市大・院・理）・名波 哲（大阪市大・院・理）・鈴木 亮（琉大・理）・石原聡大（大阪産大・人間環境）

B03 ニホンジカの生息密度が庇陰された道端の植生に与える影響。酒井 敦（森林総研四国）・深田英久・渡辺直史（高知県森技セ）・伊藤武治・米田令仁・大谷達也（森林総研四国）

B04 人工林伐採後の森林再生への前生樹・実生の効果の検討。山下一宏（宮崎大院・農工）・山川博美（森林総研）・近藤弘基・伊藤 哲・平田令子（宮大・農）

B05 八幡平のオオシラビソ疎生林の更新機構。林冠・ササ条件による光環境および実生・稚樹の生残・成長のちがひ。杉田久志（雪森研究所）・西尾悠佑（林野庁）・高橋利彦（木工舎ゆい）・梶本卓也（森林総研東北）・市原 優（森林総研関西）・國崎貴嗣（岩手大農）

B06 ベトナム南部グラット高原の熱帯マツ林植生について。原 正利（千葉県立中央博物館）・Trương Hoàng Thanh（Dalat Univ.）・Tiến Trần Văn（Dalat Univ.）・大澤雅彦（雲南大学）

B07 ブラジル北東部において灌漑による水文環境の変化が熱帯季節乾燥林に与える影響。吉田圭一郎（横浜国立大学）・宮岡邦任（三重大学）・山下亜紀郎（筑波大学）・羽田 司（徳山大学）・Marcelo Eduardo Alves Olinda（ブラジル連邦教育科学技術院）・Armando Hideki Shinohara・Frederico Dias Nunes・大野文子（ペルナンブコ連邦大学）

B08 ケニアの熱帯乾燥林からafromontane林への気候と森林勾配の変化。藤原一繪（横浜市大・院・生命ナノシステ

- ム)・Samuel Kiboi・Patrick Mutiso (Univ. Nairobi)・Simon Kage (IFCMS)・Duncan Mutiso Chalo (Univ. Nairobi)・林寿則・目黒伸一 (IGES, JISE)
- B09 ブナ実生はいつ、どのように生長しているのか? 西本孝 (NOI 岡山)
- B10 東北地方におけるコナラ林の種組成区分と分布. 大山弘子
- B11 兵庫県淡路島における外来種であるナルトサワギクおよびモウソウチクの分布拡大防止に関する地域での活動. 藤原道郎 (淡路景観園芸学校/兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)
- B12 次世代の全国規模植生図作成の課題. 原 慶太郎 (東京情報大学・総合情報)
- B13 日本の植生調査資料への trait データベースの適用の可能性. 松村俊和 (甲南女子大学・人間科学部)
- B14 植生調査資料データベースの有用性と活用方法の検討. 橋本佳延 (兵庫県博)・伊勢 紀 (Pacific Spatial Solutions (株))
- 〈ポスター発表〉
- P01 東日本大地震に伴う津波や復旧事業による海岸防災林の植生変化に関する客観的評価の試み. 曲淵詩織 (福島大・院・共生システム理工)・江田 至 (福島大・共生システム理工)・黒沢高秀 (福島大・共生システム理工)
- P02 大津波で攪乱された海岸後背湿地における微細地形に対応した自律的な植生再生. 平吹喜彦・菅原諄史 (東北学院大 地域構想)・菅野 洋 (東北緑化環境保全 (株))・岡 浩平 (広島工業大 環境)・杉山多喜子 (宮城植物の会)
- P03 復旧工事前後の植物群集とカワラハンミョウ数の変化. 富田瑞樹 (東京情報大)・五十嵐由里 (宮城昆虫地理研究会)・菅野 洋 (東北緑化環境保全)・平吹喜彦 (東北学院大)・原 慶太郎 (東京情報大)
- P04 植生学会「東日本大震災プロジェクト フェーズ2」. 大淵香菜子 (NPO 法人海の自然史研究所)・島田直明 (岩手県立大学)・平吹喜彦 (東北学院大学)
- P05 高知県四万十町市ノ又風景林の溪畔域における樹種組成と林分構造 (予報). 秋山琴音・矢田俊介・比嘉基紀 (高知大・理工)
- P06 奥日光千手ヶ原溪畔林における22年間の森林動態. 山川博美・柴田銃江・酒井 武 (森林総研)・野宮治人 (森林総研九州)・伊東宏樹 (森林総研北海道)
- P07 溪流攪乱に影響される林床植生の種組成と季節変化. 伊藤菜美 (新潟大学大学院 自然科学研究科)・崎尾 均 (新潟大学農学部)
- P08 沖永良部島の河川における植物群落の分布パターンと種多様性. 森岡真弥・川西基博・田中郁弥 (鹿児島大・教育)
- P09 植生の断片化とツル植物出現の関係. 奥山香澄・西尾孝佳 (宇都宮大・雑草里山セ)
- P10 埋土種子相からみた草原跡地における草原生植物の再生可能性. 井上雅仁 (三瓶自然館)・高橋佳孝 (西日本農研センター)
- P11 淡路島の畦畔における低茎ネザサ群落の組成と立地. 原田一輝・澤田佳宏 (兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科/淡路景観園芸学校)
- P12 愛媛県大洲市肱川沿いの畑地に遺る境木の樹種組成とその利用. 徳岡良則 (農研機構)・木村健一郎 (国際農研)・橋越清一 (愛媛大学)・岡 三徳 (東京農大)
- P13 全国に残存する苜蓿が優占する半自然草地の現状. 薄井創太 (福島大・院・理工)・黒沢高秀 (福島大・理工)
- P14 淡路島における圃場整備時に表土移植をおこなった棚田畦畔の1年目の植生. 澤田佳宏 (兵庫県立大学・緑環境マネジメント/淡路景観園芸学校)
- P15 中国山地の半自然草原における刈り払いと植生変化. 井之上侑雅・永松 大 (鳥取大学・院・農)
- P16 大阪北部と東部の山系における鳥類と植生の関係. 秦野遼平 (中外テクノス (株))・角原美紗 (奈良農業大学校)・川手翔太 (信州大学)・指原優輝・小川みどり (無所属)
- P17 山岳湿原の登山道による踏圧が植生と土壤環境に与える長期的影響. 元廣はるな (北大学院農学院)・富士田裕子 (北大 FSC 植物園)・柏木淳一 (北大農学研究院)・三木 昇 (北ノ森自然伝習所)・内田暁友 (斜里町立知床博物館)
- P18 雲取山コメツガ林におけるニホンジカの過密化と侵入防止柵設置による植生変化. 星野義延・唐津勇人・吉川正人・大橋春香 (東京農工大学大学院)・岩崎浩美・村木瑞穂・佐藤萌子 (東京都水道局)
- P19 水分条件と光条件が異なる立地における湿地性低木シデコブシの生育状態の比較. 大原 充・肥後睦輝
- P20 天然記念物保全における保存活用計画の必要性—北山湿地における保全方法と生物多様性—. 渡邊幹男 (愛教大・生物)・佐野 聖 (愛教大・生物)・内田 萌 (愛教大・生物)・佐原由里恵 (愛教大・生物)・中根逸男 (岡崎市・環境保全)
- P21 定点調査に基づく赤井谷地の植物分布と植生動態. 竹原明秀 (岩手大・人文社会)
- P22 岩手県陸前高田市における湿原性希少植物再生の取り組み. 島田直明・齊藤幸四郎 (岩手県大・総合政策)
- P23 宇都宮城蓮池跡の古植生の解析と蓮を活かしたまちづくり. 印南洋造 (宇都宮城跡蓮池再生検討委員会)
- P24 諏訪湖周辺の河川および水路における水生植物群落の構造と分布. 福村 友 (信大・農)・大窪久美子 (信大・大学院農)
- P25 四国地域の植生分布のモデル化. 比嘉基紀 (高知大・理工)
- P26 標本調査からみるカキノハグサの生育立地特性と環境要求性. 黒田有寿茂 (兵庫県大・自然研)
- P27 ナデシコタネコバンゾウムシ (*Sibinia (Sibinia) sp.*) によるナデシコ (*Dianthus*) 属の食害の現状と種間比較. 高橋万裕・武生雅明 (東農大・地域環境)
- P28 小学校における外来植物オオキンケイギクの管理活動. 齋藤達也 (「森の学校」キョロロ)
- P29 Similarity and difference of plant species composition among elementary and junior high school sites in Urban area. Nuerbiye Maimaiti・Masato Yoshikawa (United graduate school of agricultural science, Tokyo University of Agri.&Tech.)
- P30 都市部におけるノゲシとオニノゲシの分布と生活史・繁

- 殖戦略, 佐々木洸大・園田拓巳・田村祐翔・佐藤尊宏 (海城中学高等学校)
- P31 淡路島における裏山の生物を用いた生活文化の聞き取り, 吉野 咲・澤田佳宏 (兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科/淡路景観園芸学校)
- P32 市街地における風散布種子の拡散パターン, 西尾孝佳 (宇都宮大・雑草里山セ)
- P33 高齢化したコナラ林における伐採後の萌芽の発生と伐採高・株サイズとの関係, 飯島 諭・吉川 正人 (東京農工大・院・農)

X. 会員移動 (2018年5月から2018年11月まで)

1. 新入会員 (*学生)

- 溝手 克弥 エコプラン研究所
- 松浦 隆介* 新潟大学農学部生産環境科学科
- 山下 一宏* 宮崎大学農学工学総合研究科
- 曲淵 詩織* 福島大学共生システム理工学研究科
- 佐々木洸大* 海城高等学校生物部
- 秋山 琴音* 高知大学理工学部植物生態学研究室
- 高橋 万裕* 東京農業大学大学院農学研究科
- 大和 卓海* 高知大学大学院理学専攻 (修士課程) 植物生態学研究室
- 奥山 香澄* 宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究セン

- ター
- 唐津 勇人* 東京農工大学大学院農学府自然環境保全学専攻
- 中原 美穂* 信州大学大学院総合理工学研究科農学専攻
- 吉野 咲* 兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科
- 原田 一輝* 兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科
- 薄井 創太* 福島大学共生システム理工学研究科生物多様性保全研究室
- 松田 隆平* 東京農工大学大学院農学府自然環境保全学専攻
- 井之上侑雅* 鳥取大学地域学部棟植物生態学研究室
- 飯島 諭* 東京農工大学植生管理学研究室
- 秦野 遼平 中外テクノス株式会社
- 高橋 歩* 東京農工大学植生管理学研究室
2. 退会
塩崎暢彦, 富森加耶子, 佐藤佑樹, 中越信和, 水田裕希, 波多野友規子, 郭 英華
3. 宛先不明
杉村康司, 片桐浩司, 奥田 賢, 仲山真希子, 山崎香陽子, 奥田 圭, 畑中由紀, 前川恵美子, 羽二生亜衣, 黛 絵美, 池田 茂, LI HAO, 川瀬 彩, 張 秀龍